

TPPに反対と言いながら 「TPP交渉参加に向けた協議の中止を求める請願」に反対するとは!



3月22日、文化会館で行われたTPP反対集会。ここに参加しながら請願に反対した議員もいました。

協議中止を求める請願、賛成少数で不採択に

まさかと思うことが現実になり、農民運動新潟県連合会（今井健会長）が上越市議会に提出していた、「TPP交渉参加に向けた協議の中止を求める請願」が賛成少数（14議員が賛成）で不採択となったのです。

同請願は、この間、アメリカとの事前協議で、牛肉の輸入条件緩和、郵政民営化の徹底、医療への自由競争の持ち込み、食の安全基準・表示の緩和、共済制度の廃止などを求められていることに懸念を表明しています。また、野田首相が、TPP関係各国が日本に求めている要求や情報を国民に明らかにし、国民的な議論を踏まえてTPP交渉に参加するか否かの結論を出すということを繰り返し強調しているにもかかわらず、TPP交渉そのものが秘密主義であることをニュージージーランド外務貿易省が公式に表明していること

にも疑念があるとしています。そうしたなかで、このまま関係各国との協議を進めることは許されないと、TPPへの事実上の参加表明を撤回し、関係各国との協議を中止するよう政府関係機関に意見書を提出することを求めたのです。

この請願は3月2日に市議会文教経済常任委員会で審査し、委員間討議も行われました。請願に反対した議員は、「昨年3月にTPP交渉参加反対の意見書を出したので改めて出す必要はない」「国として、メリット、デメリットをまだ明確にしていない。今回の請願に反対するからと言って、TPPに賛成するものではないが、国は国民にもつと説明する必要がある」などとのべました。

これに対して請願に賛成した議員は、「今回の請願に反対するとなると、昨年の意見書の提出との間で矛盾を生じてくる」「昨年の3月には、交渉のテーブルに着くなどという意見書を出しているのだから、請願を採択すべきだ」と主張しました。

3月23日の本会議では、日本共産党の上野議員がこの請願の採択に賛成する立場から賛成討論を行いました。上野議員は、「上越市議会では、TPPの問題については、これまで議論が積み重ねられ、農林漁業分野だけでなく、食の安全のほか、金融や保険、医療、雇用まで広範囲にわたって大きなマイナスの影響があることを認識し、その結果、昨年3月議会では議会の総意として『TPP交渉自体に参加することに反対する意見書』が採択された。しかし、野田民主党政権は、上越市議会の総意や国民の声に反してTPP参加を前提にした

協議を強行している。これまでの協議の中で、例外なき関税撤廃を前提に野田首相も全品目を対象にTPPに参加することを明言している。これに対して、多くの国民が抗議の声を上げ、『TPP交渉参加に向けた協議そのものを中止するよう』求めているのは当然のことだ」と訴えました。

TPP交渉参加に向けた協議の中止を求める請願に賛成した議員、反対した議員

【賛成した議員】

柳沢 周治、小関 信夫、塚田 俊幸、本城 文夫（以上、市民クラブ）、中川 幹太、吉田 侃、水澤 弘行、小林 克美、石平 春彦、（以上、市民ネット改革）、平良木 哲也、上野 公悦、橋爪 法一、樋口 良子（以上、日本共産党議員団）、武藤 正信（創風クラブ）

【反対した議員】

草間 敏幸、笹川 栄一、塚田 隆敏、高波 勝也、田中 吉男、田村 武男、岩野 虎治、栗田 英明、岩崎 哲夫、佐藤 敏、古澤 弘、大島 武雄、小林 章吾（以上、新政）、鴨井 光夫、大島 洋一、瀬下 半治、内山 米六、宮崎 政国、渡辺 隆、松野 義之、飯塚 義隆、江口 修一（以上、創風クラブ）、日下部 進、波多野 一夫、林 辰雄、山崎 一勇、森田 貞一（以上、市政みらい）、杉田 勝典、上松 和子（以上、公明党）、永島 義雄（無所属）

TPP参加を前提にした協議を強行している。これまでの協議の中で、例外なき関税撤廃を前提に野田首相も全品目を対象にTPPに参加することを明言している。これに対して、多くの国民が抗議の声を上げ、『TPP交渉参加に向けた協議そのものを中止するよう』求めているのは当然のことだ」と訴えました。

玄関前まで行った時、何となく懐かしさを覚えたくらいですから、前回の訪問からもう三か月くらいは経っていたんだと思います。三月下旬の雪が降った日、久しぶりに柏崎の母を訪ねてきました。

義父が天国に旅立ってから一年数カ月になりますが、独りになってきみしいだろうと、ひと月に一度や二度は義母のところへ行くようにしてきました。ところが、今冬は豪雪で雪と格闘する日が続き、柏崎まで行く余裕がありませんでした。それに、春には市議の改選を迎えるということもありました。

居間に入ると、義母は私の顔を見るなり、「久しぶりだねえ、どうしたかと思つてた」と言いました。そして、「三月二〇日には来ると思つて、あんちゃん、いっぱい用意してたんだよ」とも。義兄もまた、「彼岸の中日でしょ、休みだし、来る確率高い、そんなん考えてたらさ、なんかやらんばならんと考えてた。とりあえず用意だけしといたこて。飲み会になつてしもうたけど」と笑つて言いました。

二〇日は義父の命日でした。昨年はこの日に法要を行い、納骨をしていたのです。そんなこともあつて、特別の思いがあつたのでしょうか。私は、「うちんのは来るつもりではいたんだけどね、具合が悪くなつちやつて……」と言つたものの、申し訳なく思いました。

コタツのそばの座イスに座つていた義母は、「おめさんちのお母さんは体調いいんだのう、細々（こまごま）と動いてるから」などと言いつつながらコーヒーを用意してくれました。「ギュギュギュギュ……、ブブブブ……」ポットのような形をした器具（コーヒーメーカー）からコーヒーが出てきて、カップに注ぎこまれます。うーん、やわらかい感じがして、いい香りがする。私は、テーブルの上にあつた沢庵（たくわん）をいただきながらゆつくりと飲みました。

私がコーヒーを飲む様子を見ていた義母が「おここ、美味しいでしょ」と尋ねてきましたので、「これ、コーヒーに合うね」と答えました。すると、義兄が「あんまり聞いたことないな、沢庵がコーヒーに合うなんて」と言つて笑いました。

居間にいた三人のおしゃべりは、サッカー、相撲と次々と変わり、住宅改造の話になりました。

正月前の話では台所と居間をかまうという話でした。それがまったく進んでいません。どうしたのかと思ひ、「ねえ、そこそここの部屋かまうなんて言わなかつた？」と訊くと、当初の計画は変更することになつて、その中身がまだ詰まっています。その方がいいかと思つてさ。義母の話では、玄関脇の物置スペースを改造して自分の部屋をつくるのだとか。ただ、天井が低いから、芝居小屋みたいになるそうです。

話の途中、外でドドツという音がしました。屋根の雪が落ちたのです。今冬は寒くて、屋根の雪も凍りました。軒（のき）を壊したり、樋（とよ）を一緒くたにして曲げてしまった家もあります。でも、この日の雪はお日様に当たるとすぐにびしゃびしゃになりました。

今年の雪消えは去年に比べて、一週間から十日遅いといわれています。戻り雪を踏んで外に出た時、玄関先にいた義母の声が聞こえてきました。それでも、おめさんだけでも顔見せてくれてよかつた……。やはり、わが子に会いたかつたんですね。

日本共産党議員団、新年度一般会計予算に3年ぶりに反対

日本共産党議員団は、最終日の23日の採決では、一般会計予算や30%もの引き上げとなる介護保険特別会計予算などに反対しました。新年度の一般会計予算は一昨年、昨年と賛成してきましたが、今回は重大な問題を含んでいるとして反対しました。

反対討論には樋口良子議員が登壇しました。

同議員はまず、新年度予算においては、市民の命とくらしを応援する施策も盛り込まれているとして、①子ども医療費助成の対象年齢を、子どもの人数に関係なく通院も入院も中学校卒業まで拡大したこと、②市内経済への波及効果の高い住宅リフォーム促進事業を継続したこと、③保育料を階層区分の細分化（13から20へ）し、負担能力に応じた設定にするとともに、全階層で引き下げたことなどを評価しました。

しかし一方で、新年度予算には「市民こそぞ真ん中」とはいえない重大な問題が含まれているとして、次の5点を指摘し、反対しました。

- ①総合事務所の弱体化につながりかねない総合事務所のあり方の見直しに固執していること。
- ②大事な教育の一環である学校給食で、経費削減などを理由に民営化を拡大していること。
- ③「コミュニティスクール」の実施は、対等平等であ

るべき家庭・地域と学校に無用な亀裂を生み出す危険性があること。

④コンポストや生ごみ処理機購入補助制度の廃止など市民サービスの低下が見られること。

⑤すでに終結している同和対策予算が依然として計上されていること。

特別会計のうち、介護保険特別会計には保険料を来年度以降30%も大幅に引き上げることが盛り込まれています。「少ない年金では暮らしていけない」実態を紹介しながら、これ以上の引き上げは絶対認められないとして反対しました。

他の会派は全議案に賛成しました。なんでも賛成の立場では市民の暮らしは守れません。

総務常任委員会が地すべり現場を視察

市議会総務常任委員会は23日、板倉区国川の地すべり現場を視察しました。一行は総合事務所で説明を受けた後、国川町内会災害対策本部を訪ね、見舞うとともに、要望を聞き取りました。

